



株式会社 角川書店

国内映像コンテンツのアーカイブ化の先駆者

2011年に角川映画株式会社と合併し、世界でも類を見ない、出版事業から映像事業までのコンテンツを擁するメガコンテンツ・プロバイダーとなった株式会社角川書店（以下角川書店）。

膨大な写真やドキュメントなどのコンテンツをデジタルで管理することにいち早く着手した企業でもある。デジタル管理システムの導入以前は、同社の映画作品の宣伝用写真は、紙焼き、ポジフィルム、ガラス乾板（感光する銀塩の乳剤をガラス板に塗ったもの）などあらゆる形態で存在し、複製の準備、各所への貸し出しと返却状況の管理などが必要で、手間と費用を要するものだった。さらに同社の歴史的にも貴重な資産とも言える映画スチール写真を、いかに後世へ引き継いでいくかを模索していた。

そんな折、既にプレスリリース配信システムのイメージネットを通じてやり取りのあったゲッティ イメージズよりデジタル資産管理システム、メディアマネージャーを知る。すぐに検討を進め、2006年3月に契約、その後2012年現在まで段階的に写真コンテンツのデジタル化を進め、現在では約1800作品、8万3千点の画像やドキュメントをメディアマネージャー上に保管している。

今回、導入当時から担当を続けている天野さん、現在管理業務を受け持つ田中さんと平山さんに紙やフィルムなどの資産をデジタル化することの利点、そして今後の課題を伺った。



メディアマネージャー

画像素材、動画、ドキュメントなどを一ヶ所で管理し、必要な資料や素材を簡単に検索、ダウンロードできるウェブ上のシステム。ユーザーアクセス制限を設けることで必要なスタッフだけと素材を共有したり、安全なファイルサーバとしての利用も可能です。

詳しくは：

<http://mm.gettyimages.com/mm/actions/home.do>



費用対効果と将来への安心感

画像や資料のアーカイブ化に際しての要点は（１）費用対効果が高いこと（２）将来にわたって資産を預けられる企業としての安定性だったと語る天野氏。

「導入時にはほかのサービスも検討しましたが、Getty Imagesのメディアマネージャーは機能と費用とがイメージにあっていたこと、そして企業としての安心感が大きいことで決めました。弊社のデジタイズしたコンテンツはメディアマネージャーで一括管理していて、他にバックアップがありません。ですので、資産を預けるに値する、会社としての安定性を非常に重視しました」。

Getty Imagesは1995年の創業以来、インターネットを通じた写真や動画のライセンス販売とともに、世界各地の企業にソリューションの提供を続けており、2004年にメディアマネージャーを傘下にしてからは、世界各地の多くの一般企業、媒体社、広告代理店、スポーツ団体などに同サービスを提供している。

合併前の角川映画では、2006年6月から、専任のスタッフを2名つけ、別業者によってスキャンされた作品画像のアップロードをスタート。1年後の2007年には約1,500作品、1万5千点の画像データをメタデータとともに保存が完了した。現在では、ほぼ過去作品のアップロードは完了しており、今後は新作を追加していくのみとなっている。

メディアマネージャーの社内告知やルール設定を担当しながら、社員の反応も聞いてきたという平山氏は「デジタル化したことで効率が上がったと社内でも好評です。

特に、作品名や年代に加えて、キャスト・スタッフの人物名や役名などでも検索できるのが便利ですね。メディアマネージャー上で選んだ写真をコンタクトシートにして、その場で先方にメールを送る機能も好評です」

また、デジタルライブラリー活用の重要性を指摘する田中氏は、「宣伝用写真のみならず映像作品の原版や素材をデジタル化する同業会社もここ数年増えているようです。自分たちが持っている資産の重要性がわかってきたのではないのでしょうか。何事も新しいことをはじめるのは大変ですが、その後の利用・管理を考えると必要なことだと思います。長い目で見れば、問題が解消され、効率アップにもつながると思います」と語る。



ご回答いただいた3名

天野 ゆに子 さん

映像事業局 映像コンテンツ部部長
兼 映像版権・音楽・原版管理課
兼 物流管理課 課長

平山 ひとみ さん

映像事業局 アニメーション部
アニメ・ビデオ製作課

田中 重幸 さん

映像事業局 映像コンテンツ部
映像版権・音楽・原版管理課



ビジネスのグローバル化にも寄与

角川書店の海外における映像ビジネスでもメディアマネージャーが役立っていると天野氏は語る。

「近年、海外からの問い合わせや素材支給の依頼が増えているのですが、メディアマネージャー導入以前は、国際郵便で素材を送っていて、手間もコストもかかっていました。導入してからは必要なデータをオンラインですぐに届けることができ、海外セールス部門の業務軽減

にも役立っています。今後さらにワールドワイドにコンテンツを広めていく意味でもこれは大きなポイントとなると思います」

業界でいち早く膨大な映像関連資産をデジタルで保有し始めた角川書店。ビジネスがグローバルへと拡大していくなかで、メガコンテンツ・プロバイダーのビジネスを支える、ゲッティ イメージズのサービスの意義は大きい。

➡ 会社概要

国文学者の角川源義によって終戦直後の1945年11月に創業された角川書店は1949年「角川文庫」を創刊し文庫ブームを起こすなど早くから出版界の台風の目として注目を集め、1976年には映画「犬神家の一族」を公開。書籍と映画の「メディアミックス」で大きな話題を集める。さらに1980年代に入ると「週刊ザテレビジョン」「東京ウォーカー」などの情報誌を成功させ、「情報誌の角川」と言われるよう

になる。1998年東京証券取引所で株式を公開。インターネット、デジタル・コンテンツ、電子書籍などIT事業にも積極的に乗り出し、事業形態を出版と映像に加えネット・デジタル事業の3本柱立てに進化させ、個性的な多くの事業会社が展開するグループ会社にシフト。2011年、事業再編により出版、映像の中核会社である角川書店と角川映画が合併し、株式会社角川書店となる。

➡ 企業情報

会社名: 株式会社角川書店

URL: <http://www.kadokawa.co.jp/>

住所: 〒102-8024 東京都千代田区富士見 1-8-19

創業: 平成19年1月4日